イスラーム世界研究　第 9 巻（2016 年 3 月）231–251 頁
Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies, 9 (March 2016), pp.231–251

民主化したインドネシアにおけるトランスジェンダーの組織化と政治化、そのポジティブなパラドックス*

岡本　正明**

A Positive Paradox of Organized and Politicized Transgender (*Waria*) in Democratized Indonesia

OKAMOTO Masaaki

The transgender group called *waria* in the Indonesian language was politically active nationally during the direct presidential campaign in 2014. It was the first national political movement for *waria*. *Waria* in major cities enthusiastically supported the presidential candidate, Joko Widodo (Jokowi) partly because some *waria* leaders thought Jokowi was a pro-poor and communicative candidate and his pluralist standpoint could benefit the *waria*, one of the most marginalized groups in Indonesia. The widely opened political space under the democratic regime enabled the rise of *waria*s' political activism. The *waria* was the most politically active group among the LGBT, partly because their grouping and organizing pattern is hierarchical under one leader called *mami*. *Mami* could rather easily mobilize the members of her own group or organization for political purposes. This undemocratic character of *waria* groups and organizations (and the national networks among them) paradoxically enabled the nationwide political support for Jokowi in a democratic election.

2015 年 1 月、共産主義国家のベトナムは同性婚禁止を定めた規則を撤廃した。さらに、同年 6 月にはアメリカの連邦裁判所が同性婚を憲法上合法であると判断した。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーたちの世界的に広がる運動（LGBT 運動）により、こうした同性婚を認める動きが少しずつ出てきたことは間違いない。ただ、イスラーム諸国において LGBT 運動はそれほど盛り上がっていない。むしろ、現在は厳しく取り締まる傾向にある。例えば、東南アジアのイスラーム国家マレーシアはゲイの存在を認めていない[1)]。

本稿が取り上げるインドネシアはどうであろうか。ムスリムが 9 割近い人口を誇るイスラーム大国とはいえ、その他の世界宗教の信者もいる。また、民族も多様である。そのため、「多様性の中の統一」を国是に掲げて、宗教、民族、言語、文化面での多様性をバランスよく統治することに傾注してきた。しかし、1966 年に誕生したスハルト権威主義体制から現在の民主主義体制に至るまで共産主義の普及が認められていないことからも分るように、多様性の尊重といっても限界があった。本稿の主題である LGBT についても国家が積極的に認める様子はない。社会的な反発も強く、イスラーム急進派の一部の勢力がトランスジェンダーたちのイベントを襲撃したり、LGBT の人たちを殴打するような事件がしばしば起きてきた。だからこそ、トランスジェンダーが集会をするときには直前まで会場を参加者にさえ通知しないことも珍しくなかった。

*　謝辞：本論の作成にあたっては、2015 年 7 月 11 日の東南アジア学会関西例会での発表へのコメント、坂川直也氏、伊賀司氏、北村由美氏、平田晶子氏、柴田麻里氏からのコメントを参考にさせていただきました。感謝申し上げます。

**　京都大学東南アジア研究所准教授

1）　2015 年 7 月 11 日の東南アジア学会関西例会での伊賀司の発表「ポスト・マハティール期マレーシアにおけるセクシュアリティ政治研究序説――蔓延する「モラルの政治」、活性化する LGBT 運動」による。

しかし、そうしたインドネシアでも少しずつLGBTの政治的空間が拡大する試みが始まっている。それを象徴したのが2014年の大統領直接選挙であった。同選挙において、インドネシア語でワリア（waria）と呼ばれるトランスジェンダーたちがインドネシア各地で、大統領候補ジョコ・ウィドド（通称ジョコウィ）が多元主義的立場を持ち、マージナルな人々にも配慮ができると判断して支援したのである。

ワリアたちは、ジョコウィと副大統領候補ユスフ・カラの横断幕を持って選挙キャンペーンに参加した。2012年に行われた首都ジャカルタの州知事選でも、ワリアたちはジョコウィを州知事候補として支援する動きを見せたが、これは当然、ジャカルタに限られたキャンペーンであった。2014年の大統領選挙では、彼らはネットワークを駆使して全国展開した。スマトラ島のメダン、パレンバン、パンカルピナンでも、ジャワ島のバンドン、ジョグジャカルタ、スラバヤ、マランでも、スラウェシ島のマカッサルでもキャンペーンに参加した。ワリアの選挙キャンペーン参加はインドネシアの主要都市に及んだのである。しかも、LGBTのなかでは最も目立つ形で選挙キャンペーンに参加していた。ワリアについての研究はいくつかあるものの、この政治参加についての研究は皆無である[2)]。しかし、ワリアの政治参加は二つの意味で重要である。まず、社会的、性的マイノリティであるトランスジェンダーがそのアイデンティティーを打ち出してナショナル・レベルで連携して積極的に政治参加を試みたということは、インドネシアに限らず、おそらくイスラーム圏では例がないと思われる。

また、インドネシアの民主主義の定着の度合いを考える上でも示唆的である。政治参加可能なアクターが多ければ多いほど、民主主義の深化が見られるとするならば、さまざまな問題はあるにせよ、マイノリティ内のマイノリティ・グループとも言えるトランスジェンダーが一つの社会的カテゴリーとして政治参加を果たしたことは、明らかに民主主義の深化を示しているといえる。

では、民主化が進展して、より幅のある多元主義が容認されてくるなかで、LGBTのなかでもワリアがどうして目立って政治参加に邁進していったのであろうか。もちろん、民主化、更には分権化により、慣習・地方文化の復権が起き、また、新たな宗教観が生まれて、ワリアたちを許容する余地が広がってきたということもある。しかし、それと同時に重要なことは、ワリアに特徴的なこととして、ヒエラルキカルな、非民主的なグループ化、組織化を作りがちである点である。ワリアのグループや組織のトップがジョコウィ支持になれば、そのトップは、メンバーたちをジョコウィ支持に動員できたのである。本論文の着目点の一つは、ワリアのグループや組織が非民主的であるゆえに、選挙を通じた政治参加に邁進できたという、このポジティブなパラドックスである。

インドネシアの民主化の陰と陽

1998年5月、32年間続いたスハルト権威主義体制が崩壊して民主化、更には分権化が始まった。それから現在までの間に国会・地方議会議員選挙が4回、大統領直接選挙が3回、ほぼ問題なく行われ、2005年から各地で始まった地方首長選挙も予想以上の混乱を生むことなく行われてきた。そして、暴力沙汰もなく選挙結果に従って大統領が4回変わった。東南アジアではフィリピンと並んでインドネシアでは制度としての民主主義は確実に定着してきていると言える。ただし、民主主義の質については問題点が指摘されてきた。とりわけ汚職である。

連日のようにメディアでは政治家の汚職が取り沙汰されており、閣僚、連立与党の幹部や党首、地方首長も逮捕されてきた。こうした逮捕は、汚職が中央でも地方でも蔓延していることを示す

2）ワリアについては人類学的、心理学的研究が多い。例えば、［Kemala 1986; 伊藤 2000; 2003; Boellstorff 2007］。

一方、汚職すれば司直の手が伸びるということをも示している。インドネシアの場合、警察、検察、裁判所もまた汚職に関与していることがよくあるため、2003年、メガワティ大統領は独立機関として盗聴、訴追もできる強力な汚職撲滅委員会（KPK）を発足させた。警察、検察よりも、このKPKが有力政治家らを積極的に捜査して汚職を取り締まっている。2003年にKPK設立法を制定した時にはまさかここまで活躍するとは国会は想定しておらず、与野党内からその権限削減・解散を目論む動きが絶えない。それが国会に対する世論の不満を惹起している。

こうした民主主義の質の問題がある一方で、政治参加という観点からすれば大きな進展が見られる。その一例は、マイノリティや社会的弱者の政治参加が進んだことである。スハルト体制時代であればコーポラティズム的にしか政治参加を認められていなかった社会的弱者である労働者や農民たちが、デモをして政治的要求を中央政府や地方政府につきつけるのみならず、自ら政党を結成したり、政党から候補者として立候補したりするようにもなった。また、政治的弱者である華人の政治参加も進んだ[3)]。

インドネシアで華人といえば、経済力を握っているがために、地元民プリブミの反感を買っており、それをスハルト体制が煽って華人は経済に専念して政治には無関心であるよう仕向けられてきたところがある。しかし、民主化とともに中央・地方政界に進出し始めた。その典型は、スマトラの小さな島ビリトゥン島にある東ビリトゥン県の県知事を務めたチャハヤ・バスキ・プルナマ（通称アホック）であろう。県知事時代に改革派として名を馳せた後、同県を含むバンカ・ビリトゥン島嶼部州の州知事選に立候補した。それには敗北したものの、2009年の総選挙ではゴルカル党から国会議員となり、2012年には首都ジャカルタの州知事選でジョコウィと組んで副知事候補として立候補して当選を果たした。2014年の大統領選挙で州知事ジョコウィが当選すると、彼に代わってアホックが州知事に着任した。反汚職、行政改革を一気に推し進めており、州民の支持を強く得ている。

およそ、スハルト体制時代には考えられなかった大きな政治的変容が政治参加という面で起きている。2014年大統領選挙におけるジョコウィの立候補はこうした変容をさらに後押しするものとなった。ジョコウィは、これまでのエリート出身の大統領と違って、平民層、どちらかと言えば貧困層出身であり、苦学した後、実業家として成功した人物である。中ジャワ州のソロ市長として成功を収めた後、一気に首都ジャカルタ州知事に上り詰めた。自ら庶民のもとに出向いて彼らのニーズを汲み取ろうとする姿勢、ソフトな（ジャワ的な）リーダーシップ・スタイル、多様な価値観の存在を容認する多元主義的な立場、人々の創造力が社会変化の駆動力となることへの確信、こうしたジョコウィらしさは、一部のイスラーム主義者たちや強い確固たるリーダーシップを望む人々からは反感を買うことになったが、社会的弱者よりの政策を求める貧困層や多元主義を支持する中産階層から熱烈な支持層も生み出した[4)]。

ジョコウィへの支持はジャカルタから全国に及び、州知事着任から一年半ほどで大統領選に立候補するまでになった。ジョコウィが大統領選出馬を決めると、彼がジャカルタ州知事選に出馬した時に誕生した勝手連のようなボランティア（relawan）たちがジョコウィを支持し始めた[5)]。彼らは多様性、創造性をもった政治空間を創出していった。その空間はサイバースペースにも広がっており、サイバースペースでのボランティアたちをまとめあげるサイバー集団、進歩的ソーシャル・

3）民主主義が定着したユドヨノ政権の10年間（2004–2014年）での政治社会の変容については、例えば、［岡本2015］参照。

4）ジョコウィの台頭については、［川村・見市2015; 本名2015］参照。

5）ジャカルタ州知事選でのボランティアの台頭については、［Ahmad Suaedy 2014］参照。

メディア・ジョコウィ・ボランティア（Jasmev）が誕生した[6]。有名な歌手、俳優、女優などもボランティアとしてジョコウィ支持者となったし、コジキバト愛鳥会、自転車愛好会、凧揚げ愛好会、さまざまな専門同好会がジョコウィを支持するボランティア・グループも兼ねるようになっていった［Kristin and Fransisca 2014: xxvi］。そして、このインドネシア語でボランティアを意味するレラワンという言葉がメディアにあふれた。こうしたハレの政治的機会構造が生み出されたことが、LGBTたち、とりわけワリアの政治参加につながっていった。ワリアの政治参加の過程を見る前に、次節ではインドネシアにおけるトランスジェンダーの位置づけについて見ていこう。

インドネシア語でのトランスジェンダー――ベンチョン（bencong）、ワダム（wadam）、ワリア（waria）

インドネシア語で男性から女性へのトランスジェンダーに当たる言葉はワリアである。ワニタ・プリア（wanita pria）の省略形で、ワニタは女性の意、プリアは男性の意であるから、直訳すれば、男女ということになる。このワリアを定義することはそれほど簡単ではない。それぞれのワリアは自分なりにワリアの定義を持っている。男性のなかには、自らを男性だとみなしてはいるけれども、女性の振る舞いをしたり、ときには、化粧をして女性の服装を着用するものもいる。こうしたトランスヴェスタイト志向の男性もワリアと呼びうる。男性のなかには、自らを女性だとみなしており、社会生活においては女性として日常を生きているものもいる。彼らもまたワリアと呼ぶことができる［Kortschak 2007］。

今ではかなり一般的にこのワリアという言葉は使われているけれども、この言葉は1980年に生まれた造語である。それ以前は、ワリアにあたる単語としては、ベンチョン（bencong）、バンチ（banci）、ワダム（wadam）などが一般的であった。ジャワ語ではワドゥ（wadu）という言葉も使われている[7]。ベンチョン、バンチという言葉が今でも使われるが、差別的、侮蔑的ニュアンスを持つことが多い。そのためもあり、1960年代後半からワダムという言葉が使われ始めた。しかし、イスラームの教義解釈について政府の諮問機関的性格を持つインドネシア・ウラマー評議会（Majelis Ulama Indonesia, MUI）が、トランスジェンダーに対してワダムという言葉の使用に反対した。ワダムはハワ・アダム（hawa adam）の省略形であり、ハワは女性の意、アダムは男性の意である。アダムはイスラーム教では最初の預言者であり、ウラマー評議会が欠格者と捉えるトランスジェンダーに預言者の名が適用されることに反発したのである[8]。それゆえ、1980年頃、当時の宗教大臣であるラトゥ・アラムシャ・プラウィラヌガラに対して、ウラマー評議会はワダムに代わる単語としてワリアを使うように要望した。それを受けてプラウィラヌガラはスハルト大統領にこの提案を相談したところ、スハルトがワリアという単語の使用に合意したことから、トランスジェンダーに当たる言葉としてワリアが一般的に使われるようになった[9]。

都市に流入するワリアと黄金時代

もともと、現在のインドネシアにあたる地域には、トランスジェンダーが王国の儀礼を司る役割をしている地方もあった［伊藤 2003: 226–227］。ワリアたちの中には、自分たちは文化的に、また、

6）このJasmevはもともと、2012年にジャカルタ州知事選に出馬したジョコウィをサイバースペースで支持するために誕生したボランティア・サイバー集団である。正式名称はJokowi Ahok Social Media Volunteerである。ジョコウィが州知事に選ばれた後、活動停止となったが、彼が大統領選に出馬することになり、名前は変えつつ、その省略形のJasmevは変えずに復活した。

7）ワドゥ（wadu）は、ワニタ・ドゥドゥ（wanita dudu）の省略形であり、女性ではないという意味である。

8）インドネシア・ウラマー評議会については、［小林 2008: 291–322］に詳しく書いてある。

9）デデ・ウトモ（Dede Oetomo）（LGBTのNGO、ガヤ・ヌサンタラ会長）とのインタビュー、2014年10月25日。

アダットと呼ばれる慣習で認められてきたという主張をすることで自らの存在を正当化することも珍しくない。とはいえ、家族の成員がワリアであることを受け入れることができず、追い出す場合も多い。或いは、家族、親族や村人たちの差別に耐えられず家出してしまう場合もある。ワリアにとっての逃げ場は都市となることが多い。中でも、もっともワリアが多く集まる都市は首都ジャカルタである。あるワリアはこう言っている。「ここジャカルタだと、私を知る人はない。私の友達や家族に迷惑をかけずに、自分らしくなれるの」[*Jakarta Globe* 2014/5/15]。とはいえ、男ではなくワリアとして生きることを決めた場合、一般の就職は難しく、うまくいけば美容室で働けるが、それが無理なら、物乞いを兼ねた大道芸人になったり、売春に従事したりすることになる。また、他の職業をしながら、夜には売春に従事するものもいる。

では、いつごろから売春をするワリアが増え始めたのであろうか。少なくともジャカルタについては1950年代後半と言われている。雑誌『テンポ』のジャーナリストであったクマラ・アトモジョが1980年代前半にジャカルタで名の通った2人のワリアであるネティとエティにインタビューしており、1950年代後半のことが語られている。彼らによれば、1957年に喜劇団によばれて歌ったり踊ったりし始めたころには、まだ売春をするワリアは多くなかったという。「売春をしていたのは、ジャカルタ北部のコタにあるカンチル通りの子たちよ。道に立っている子はまだ多くなかった。」「ホテル・インドネシアの建設が始まった頃、たぶん、1957年か58年頃から、そのあたりに立ちんぼのワリアが1人か2人でてきたの」[Kemala 1986: 17–18]。

それからしばらくして、ワリアたちは現在のラワン公園やディポヌゴロ通りをたまり場（cebongan）にして売春をすることが目につくようになった。1968年になると、ワリアたちは公的な催事に参加するようになる。スハルト大統領が開会を宣言したインドネシア最大の展覧会である第1回ジャカルタ・フェア（6月5日～7月20日、モナス広場）においてスタンドの使用が認められたのである。そのスタンドは一種のバーのようなもので、パラダイス・ホールと名付けられ、ワリアたちが全てを取り仕切った［Kemala 1986: 18］。さらに、この第1回ジャカルタ・フェアでは、151人のワリアが参加するミス・ワリア・コンテストが開催された。

ワリアたちが1960年代後半にこれほど自由に活動できたのは、当時のジャカルタ州知事であったアリ・サディキン（在職期間 1966–1976年）の意向によるところが大きい。今でもワリアたちの間ではアリ・サディキン時代が黄金時代であったという評価がなされている[10)]。軍人のアリ・サディキンは強いリーダーシップで首都ジャカルタを統治することでジャカルタ州民から高い人気を得る一方、ワリアのような社会的弱者にも配慮した。実際、彼は何度かワリアたちと面談を行っており、彼らの抱える問題を理解し、彼らをうまく指導してその能力を発揮させようとしていた。アリ・サディキンはクマラ・アトモジョに次のように語っている。

> 州知事として、私は住民に起きるすべてのことに責任があると感じている。……私は、ワリアがあたかも生きる権利がないとみなされていることがわかった。……彼らもまたジャカルタ州民であることに気づいた。……どんな原因があるにせよ、ワリアを支援する必要がある。……彼らが、ジャカルタ州民として、インドネシア国民として、社会のゴミ（sampah masyarakat）と思われ続けるようなことはあってはならない。何らかの対策がとられなければならない［Kemala 1986: 18］。

10）マミ・ユリ（全インドネシア・ワリア連絡協議会（FKWI）会長）とのインタビュー、2014年9月9日。

ジャカルタ・フェア開催中にできたパラダイス・ホールは結局、訪問客が少なかったために閉鎖されてしまった。しかし、このパラダイス・ホールに関わったワリアたちのなかには芸達者なものもおり、彼らはエンターテイメント・グループとして、ワダム・オール・スターズを結成した。これも運営上の問題があり長くは続かなかったが、このグループのメンバーの 1 人であったワリアのミルナが双子の兄とともにバンバン・ブラザーズというグループバンドを結成した［Kemala 1986: 18–19］。このバンドは、ナイトクラブなどで公演を続け、後にインドネシア初の性転換手術をしたドルチェなどのワリアも 70 年代なかばに歌手として参加して人気を誇った［Dorce and FX Rudy 2005: 23–24］。

ワリアのグループ化、組織化

こうして芸能分野でワリアたちがグループづくりを始める傍ら、たまり場も増えていった。70 年代はじめ頃から、ジャカルタのワリアたちはバンテン広場、モナス公園、スロパティ公園、ラワン公園をたまり場にし始めた。たまり場は、もちろん売春の顧客を探す場であったが、それに加えて、社会のゴミとまで呼ばれるワリアたちにとって数少ない交流の場であった。エスニシティ、出身地ごとの対立などもあったが、たまり場に通うワリアたちの間には社会的弱者としての一体感もあり、1 人が病気になれば皆が助ける相互扶助的な関係が作られ始めていた。そして、1973 年、アリ・サディキン州知事の支援のもと、こうしたたまり場に集うワリアたちを束ねる組織、ワダム協会（Himpunan Wadam, Hiwad）が生まれた［Kemala 1986: 19; Abeyasekere 1987: 231–232］。ワリア初の組織である。会長になったのはマヤ・プスパというワリアであった。しかし、とりあえず結成してみただけで目的がはっきりせず、マヤ・プスパがリーダーシップを発揮することもなかったので、この協会自体は目立った活動をすることもなく休止状態に陥ってしまった。

1977 年になると、バンバン・ブラザーズのミルナはワリアたちだけのエンターテイメント・グループであるファンタスティック・ドールズを結成した。そのメンバーは、歌い、踊り、曲芸をし、コメディーをすることができた多才多芸なグループであった。ファンタスティック・ドールズは、リア公園、モナス広場、スナヤン競技場、アンチョール公園、その他のレクリエーション施設でキャバレーショーをおこなった。ジャカルタに限らず、スラバヤ、バンドン、パレンバン、スマラン、メダン、更にはイリアン・ジャヤ（現、パプア）にまで公演しに行った。このグループは非常に成功を収め、90 年代初めまで活動を続けた［Isye 1996: 112–117］。

このファンタスティック・ドールズに参加していたワリアたちの自伝・伝記を読んでみたり、ワリアたちにインタビューしたりしてわかったことは、このグループへの参加は非常に誇らしかったということである[11)]。誰にも憚ることなくセクシーな女性衣装をまとうことができ、しかも、その衣装で踊り、歌うことが人々に評価されるというのは、それだけで嬉しいことであっただろうし、また、社会的アウトサイダー視されてきたワリアたちにとっては社会的承認を受けたと考えていたかもしれない。このファンタスティック・ドールズに 19 歳の頃に入り、後には美容師として成功して有名歌手アグネス・モニカのメークアップもしてきたチェニー・ハンは、舞台に立って踊ることが楽しく、ときには有名な歌手と一緒に舞台に立てることが楽しくて仕方なかったと伝記で語っている［Isye 1996: 112–117］。

このファンタスティック・ドールズが重要なのは、こうしてワリアが誇りを持てる場となっただ

11）例えば、ファンタスティック・ドールズのメンバーであったチェニー・ハンやドルチェの伝記［Isye 1996; Dorce and FX Rudy 2005］、ナンシーとのインタビュー（2015 年 10 月 30 日）からもそのことは分かる。

けでなく、苦境にあるワリアたちのために社会活動をしたことである。高齢のワリアや慢性病にかかっているワリアの支援、放置されているワリアの墓の掃除、家族のいないワリアの葬式などの活動を行った。その資金源は、ファンタスティック・ドールズのワリアたちが歌い、踊ることで得た稼ぎであった［*Tempo.co* 2013/11/26］。

ファンタスティック・ドールズを通じて社会活動を行うことなどを通じて、ミルナはジャカルタのワリアたちの信頼を獲得していった。とりわけ、マラン川で溺死してしまったワリアのスシとイインの後始末をしっかりと行ったことがミルナの人気を高めたようで、1979 年にはマヤ・プスパに代わってワダム協会の会長になり、と同時に組織名をワリア協会に変更した［Kemala 1986: 18–19］。

こうして 1960 年代から 70 年代にかけてジャカルタにおいてワリアたちの組織化が始まったが、同様の組織化の動きは他のインドネシアの都市でも見られるようになった。家族や出身地のコミュニティに受け入れられないワリアたちは都市に流れ込み、ジャカルタでの場合と同様、たまり場を中心として集団化していった。スハルト権威主義体制のもとで政治的安定が曲がりなりにも実現して経済成長が始まると、ワリアたちにとっても都市部で美容室、場合によっては売春により仕事を探すことは容易になった。インドネシアでは、LGBT のなかでもゲイやレズビアンと比べれば、ワリアのほうが自分たちの福祉と地位向上のための組織化を早く進めた。インドネシア社会において、ワリアが男と女以外の別のセクシュアリティーを先駆的に打ち出してきたといえる［Dede 2001: 269］。

おそらく、1973 年のジャカルタのワダム協会に次いで古いワリア組織は 1978 年 10 月にスラバヤで発足したスラバヤ市ワリア連合（Persatuan Waria Kota Surabaya, Perwakos）であろう[12)]。その後、マラン・ワリア連盟（Ikatan Waria Malang, Iwama）やジョグジャカルタ特別州ワリア（Waria DIY）いった組織が誕生した。Waria DIY は 1980 年に発足してから一年後、ジョグジャカルタ・ワリア連盟（Ikatan Waria Yogyakarta, Iwayo）に名称変更をした［Koeswinarno 2004: 62］。それ以前にもたまり場を中心として小さなワリアたちのグループは存在していたが、1970 年代中葉以降、一都市をカバーするような組織が生まれ始めた。単に集まるだけが目的ではこうした組織は継続性を持たないはずであったが、ワリアの間に HIV/ エイズが急速に流行したことが、皮肉にもワリア組織の強化につながった。ワリアたちへの HIV/ エイズの流行を阻止し、罹患者のケアをすることが組織化の重要な目的となり、ワリアの組織は増加・発展していった。また、ワリア以外のゲイやレズビアンの組織化も進んだ。中央政府、地方政府、そしてドナーから HIV/ エイズ予防のための援助が急速に増加して、ワリアを含めた LGBT たちの組織はその受け皿となったのである。そこで、ワリアたちはドナーなどとの関係を通じて自らを組織化することを学び、また、ゲイやレズビアンの組織とも協力することを学び始めた。

インドネシアにおいては、セクシュアリティーの少数派グループのなかでもワリアたちが最も目立って権利要求をしてきたし、組織化も進めてきた。なぜであろうか。自らゲイであることを告白して LGBT の権利要求運動の先頭に立つデデ・ウトモは、その理由の 1 つは、伝統的にワリアのような存在（、ネガティブな表現を使えば、バンチやベンチョン）はインドネシアの豊かな文化にずっと存在してきていて、ゲイやレズビアンと比べれば受容されやすい点をあげている［Dede 2001: 274］。あるいは、ワリアたちのアイデンティティーゆえなのかもしれないという。ゲイやレズビアンであれば、男性が好きな男性なのかどうか、女性が好きな女性なのかどうかは外見からはわからないので、自らがゲイである、レズビアンであるというアイデンティティーを隠すことができる。

12）スラバヤ市ワリア連合はスハルト時代から活動が活発であった。当時の活動については、［Dede 2001: 271–276］。

ゲイであれば男性の服装を身に着けているし、レズビアンは女性の服装を身に着けている。それに対して、ワリアの場合、女性らしく振る舞うというだけの男性もいるが、見た目が女性っぽく、化粧をし女性の服装を着る男性もいる。他者の目から見れば、ワリアとしてのアイデンティティーはすぐに分かる[13)]。しかも、ワリアのなかには、カミングアウトしてしまえば、ミス・ワリア・コンテストのように人前に立つことを躊躇わないものも多い。そのように目立つ存在であるゆえにLGBTの間ではイスラーム急進派などから襲撃される割合が最も高い[14)]。

また、ワリアたちの場合、ゲイやレズビアンと比べれば、結束力のあるグループや組織を作る傾向が強い。前述のように、ワリアの場合、若年層のときに故郷を離れて都市に流れ込んでしまうケースも多いことから、彼らの学歴は低く、美容室で働いたり、物乞いを兼ねた大道芸人となったり、お菓子を作って売ったり、たまり場で売春をして稼ぐことが多くなる。中でも、たまり場で売春する場合、顧客とのトラブルや治安組織の取り締まりなどさまざまなリスクがあり、1人で対処しきれないことが多い。結果として、マミと呼ばれる年長のワリアを頂点としたヒエラルキー的なグループや組織が生まれやすい[15)]。マミ擬似家父長制のようなグループ化、組織化である。マミの言うことを他のワリアたちは聞くし、マミは自分のグループのワリアたちの仕事を探し、彼らの抱える問題の解決に奔走する。例えば、深夜にワリアたちがたまり場で顧客を探しているとき、売春は違法行為のため、自治体の公共保安部隊（Satpol PP）の隊員や警察官が取り締まり（razia）にくることがある。仮に捕まってしまえば、ワリアたちは暴行や性的虐待を受けることも珍しくない。マミが公権力との交渉に当たることで迅速な釈放にもつながる。こうしたマミと他のワリアたちの関係は民主的ではない。しかし、必ずしも学校教育を十分に受けておらず、集団行動に慣れていないワリアたちからなるグループや組織を運営する上では効率的なことが多い。ときには、あるワリアのグループと別のワリアのグループとでは友好関係にないことがあっても、それぞれのグループのマミが同じ意見や目的を持てば、その部下のワリアたちも集団行動を取ることができたりする。マミたちが政治化したとき、こうした結束力は有効な政治資源となった。では、ワリアたちがどのように政治化したのかについてスハルト権威主義体制から見ていこう。

スハルト権威主義体制期のワリアと政治

1967年から1998年まで32年間続いたスハルト権威主義体制は、フェミニストのジュリア・スルヤクスマの研究に従うなら、家父長的なジェンダー・イデオロギーを持った体制であり、女性には妻と母親という位置づけしか与えておらず、フォーマルな政治空間に女性の積極的進出を認めていなかった［Julia 2011］。ましてや、セクシュアリティーの曖昧なワリアたちがフォーマルな政治に関与することを認めるはずもなかった。ジェンダーごとに役割分担の明確化をしようとしたスハルト体制からすれば、ワリアの存在は厄介であったのである。それゆえ、スハルト体制は次のように

13）デデ・ウトモ（Dede Oetomo）とのインタビュー、2014年10月25日。

14）カミングアウトしたワリアの場合、非常に目立つことから、ゲイやレズビアンと比べても、高い確率でイスラーム急進派などから襲撃を受けている。その点については、2009年から2012年にかけて、インドネシア12の都市でLGBTIに対する人権侵害を調べたインドネシア初の報告書に詳細な情報がある［Tim Jaringan Pemantauan HAM LGBTI Indonesia 2013］。

15）ワリアにおける擬似家父長制の存在については、インタビューしたワリアたち、LGBTを支援するNGO活動家たちが揃って口にするワリアのグループ、組織の特徴であった。インタビュー対象者：ベティー（WR・バベル会長）（2014年9月2日）、ハルトヨ（LGBTのNGO、我々の声会長）（2014年9月9日）、マミ・ユリ（2014年9月9日）、チェンチェン（大マラン地方エイズ対策ワリア協会会長）（2014年10月22日）、デノック（スラバヤ市ワリア協会事務局長）（2014年10月22日）、デデ・ウトモ（2014年10月25日）、カニス（ガヤ・ヌサンタラ事務局長）（2014年10月25日）、シンタ（ジョグジャカルタ・ワリア連盟会長）（2014年10月27日）、マミ・ジョイス（エイズ対策NGOスリカンディのタマン・ラワン地区責任者）（2015年11月1日）。

ワリアを形式的に取り込むことしかしなかった。

1980 年代中葉、先述したワリア協会は政権党ゴルカル傘下組織である MKGR（相互扶助家族主義協議会）の一員となった。ワリア協会は、建前としては、ジャカルタ特別州にいるワリアを代表する組織であるから、政府がワリアの存在を公的に認めたと考えることができる。しかし、こうした取り込みがスラバヤなどにも広がり始めると、ワリアのコミュニティには政府のとり込み支持派と反対派とに二分していくような状況が生まれてしまった［Dede 2001: 314］。家父長的なイデオロギーを重視する政府の真意を図りかねたからであろう。

とはいえ、ワリア協会は MKGR に参加した後、何もしなかったわけではなく、ワリアの保護を求めて意見表明を行ったりもした。例えば、1994 年にジャカルタでアジア太平洋経済協力（APEC）会議が開かれる前に、ワリア協会は、ジャカルタ州の公共保安部隊の隊員と国軍の兵士たちがワリアに対して差別的であり、非人道的振る舞いをすることに抗議する声明を発表した。その声明にはこう書かれていた。ワリアたちは布袋に入れられて殴られ、APEC 会議開催中はワリアたちは「制御される」必要があると言われた。ワリアたちは動物扱いされ、侮蔑され、取り調べのために逮捕されて真っ裸にされた。ワリア協会のメンバーの一部は、兵士に性的サービスをすることを強要された。

こうした対応に抗議したうえで、ワリア協会は料理教室、英語教室、運動大会などの積極的活動を通じて常に国家建設を支持しているとした。ワリアたちは APEC 会議のために訪問する外国人に対して肉体的にも精神的にもサービスするし、診断書で健康が証明されており、礼儀正しく英語が話せる 100 人のワリアを用意するとまで書かれていた［Inside Indonesia 1994: 4］[16]。

こうした抗議活動に加え、ワリア協会はワリアの権利要求も行っている。1997 年には、社会省に対してワリアを独立したアイデンティティーを持つグループとして認め、神の意志（kodrat）としてワリアの存在を認めるように要求さえしている［Marjaana 2012: 71］。

ただ、こうしたワリア協会の要求は全く無視された。MKGR の傘下に入ることでワリア協会は無力化していったと見たほうがよいであろう。別に、MKGR がワリア協会を通じて積極的にワリアたちを支援したわけでもない。ワリア協会自身、しっかりした運営体制が作られておらず、定款や内規はなく、会員リスト、レターヘッドや公印などもなかった。執行部もなかった。ワリア協会を見てきたクマラ・アトモジョにすれば、実質のない組織でしかなかった［Kemala 1986: 103–104］。スハルト時代の政府は、ワリア協会を通してワリアを取り込んだものの、それはあくまでも形式的であり、ワリアの要求を聞き入れるためではなかった。

スハルト体制期のワリアの政治との関わりとしては、こうしたゴルカルの傘下組織を通じて関与する以外にも、選挙キャンペーンの際に設けられた舞台などでエンターテイナー、歌手、踊り子になることもあった。スハルト体制期に選挙に参加できたのは、政権党ゴルカルに加え、ナショナリズム政党である民主党（Partai Demokrasi Indonesia, PDI）、イスラームを核とする開発統一党（Partai Persatuan Pembangunan, PPP）の三政党だけであり、民主党がワリアを選挙キャンペーンに多く招いた[17]。その理由は、民主党が他政党と比べて地方文化を尊重し、多様性に寛容だからである。しかし、ワリアが選挙キャンペーンに参加したのは政治意識が高いからではないし、権利を要求するための戦略に基づくものでもなく、ただ、金銭的理由でしかなかった。民主党にしても、ワリアたちが選挙キャンペーンを盛り上げてくれれば十分であり、彼らの要望を聞くためにワリアたちを呼ん

16）ここでのサービスは、明らかに性的サービスの提供も含意している。

17）デデ・ウトモとのインタビュー、2014 年 10 月 25 日。

だわけではなかった。

MKGR を通じた参加にせよ、選挙キャンペーンの参加にせよ、政権や政党の側にはワリアの要望に耳を傾けることはさしてなかったのがスハルト体制期の特徴であるが、一つだけ例外があった。非合法な政党である民主人民党（Partai Rakyat Demokratik, PRD）の存在である。1996 年 4 月に若手知識人たちによって設立された同党は社会民主主義的イデオロギーを持っていた。ゲイ、レズビアン、ワリア、セックス・ワーカー、麻薬常用者にも権利があり、それは社会的・文化的権利として認められるべきものだと同党は主張していた。三政党しか公認されていないスハルト体制期には、民主人民党は非合法政党であったため、インフォーマルな政治闘争を通じて LGBT の権利闘争を行った。民主人民党は周辺化された人々の闘争を重視しており、ここで言う周辺化、あるいは、搾取された人々というのは、経済的な意味だけではなく、イデオロギー的にヘゲモニーを握っている言説において周辺化されている人々をも意味している。デデ・ウトモによると、フィリピンのマルコス大統領を打倒したピープル・パワー革命の際には、民主化運動とゲイやレズビアンの運動の間には連携があり、フィリピンで教育を受けたダニエルのような民主人民党幹部たちは、こうした連携を 1 つのパッケージで捉えていたという［Dede 2001: 159–160］。そのことからすれば、ワリアたちもまた搾取されてきたグループに入り、民主人民党の進める民主化運動と連携できる可能性はあった。ただ、一般に学歴の高いゲイやレズビアンの活動家と違い、ワリアたちは活動家でも学歴は低い。一方、民主人民党は若手知識人が作ったエリート的な政党であり、こうした知識人とワリアたちの間には大きな距離があり、対等に運動することは不可能であるか、相当の時間がかかったであろう。民主人民党幹部たちもスハルト体制下で抑圧される中、ワリアたちとの連携は起きなかった。しかし、97 年のアジア経済危機を経てスハルト体制が崩壊し、新たな民主化時代が到来すると、ワリアは社会的により受け入れられるようになっていった。

民主化時代のワリアと新たなイスラーム・ディスコースの誕生

権威主義体制の崩壊と民主化の始まりは、少しずつワリアたちの視野、考え、行動にも影響を与え始めた。もちろん、権威主義体制時代にも、すでに述べたように、不十分とはいえ、ワリアたちは自分たちの身を守り、互いに助け合うために、また、HIV/ エイズ予防教育と研修のために組織化することに慣れてきていた。一部の自治体の中には、社会局を通じて、ワリアに対して料理や美容の研修プログラムを実施する際には、ワリアの組織やグループを窓口にしていた。また、ゲイやレズビアンに比べてワリアたちはワリアとして人前に出ることに躊躇せず、選挙キャンペーンでも踊り子や歌い手として参加してきていた。こうした組織化の経験と躊躇せずに人前に出ることができたことが、民主化時代には、ワリアにとって公的な政治空間に出ていくための重要な政治的資源になっていく。

民主化時代に入ると、左翼から右翼まで様々な思想と実践が生まれてきており、そうしたなかでワリアの社会的位置づけの見直しも少しずつ始まった。インドネシアの文化と慣習（adat）からすれば、ワリアの存在は新しいわけでもないし、妙なわけでもない。インドネシアでは彼らの存在が受け入れられている地域もあった。もっとも顕著な例は、スラウェシのブギス文化におけるチャラバイ、ビッスである[18)]。慣習的にワリアは認められてきたという主張を通じてワリアの復権を図ろうという動きはスハルト体制崩壊以前からあったが、民主化と共に始まった分権化により地方文化

18）チャラバイ、ビッスがスハルト体制の頃から南スラウェシでは組織化されており、社会的にも結婚着付けなどの仕事で生計を立てていた様子は、伊藤［2000; 2003］の研究に詳しい。

と慣習が重視されてくる中でさらに強まってきた。加えて、宗教、とりわけイスラームにおいても新たな考えや運動が起きてきて、ワリアの存在にも影響を与え始めてきた。イスラーム急進派の中には、ワリアの存在を真っ向から否定して、ワリアたちの集まりを襲撃するような事件も何度か起きている。一方、そうした動きとは反対の動きもある。その象徴は、2008 年にジョグジャカルタのノトユダンに誕生したワリアのためのイスラーム寄宿塾（Pondok Pesantren）であるアル・ファタである。その設立と展開は次のようなものである[19)]。

ワリアであり、この寄宿塾設立者のマルヤニは、イスラーム宣教師 KH・ハムロリ・ハルンの説教をよく聞きに行っていた。というのも、ハムロリはマルヤニがワリアであることを知りながら、他のムスリムと差別することなく対応してくれていたからである。「15 年前から私はこの説教を聞きに行っていた」とマルヤニは 2013 年に語っている。2006 年にジョグジャカルタで大地震が起きた時、マルヤニは他のワリアたちとともに読経会を実施し、ハムロリやその他の宗教指導者を招待した。牧師やそれ以外の宗教指導者も招聘したという。そして、インドネシア各地から来た 200 人ほどのワリアがその読経会には出席した。ハムロリの助言もあり、「それがきっかけとなって、寄宿塾を作るというアイデアが生まれたの」とマルヤニは語っている［*Tempo* 2013/11/24］。

しかし、ハムロリの真意はワリアをムスリムとして受け入れることではなかった。彼がワリアのための寄宿塾を作るように進めたのは、最終的に説教を通じて男性に戻すというアジェンダを持っていたからであった。ハムロリはそのことを地方紙に書いており、それを知ったワリアたちは失望して彼の家にデモをかけ、ハムロリは寄宿塾に寄り付かなくなった。その後、マルヤニが 2014 年に亡くなると、ワリアの寄宿塾は活動停止状態に陥った。しかし、ジョグジャカルタ・ワリア連盟の会長であるシンタが寄宿塾を自分の家に移して活動を再開した。

今では、KH・アブドゥル・ムハイミンがこのワリア寄宿塾の後見人となっている。ムハイミンは多元主義に理解のあるイスラーム指導者ウラマーであり、宗教間の平和的関係の推進を目指す信者間友好フォーラム（Forum Persaudaraan Umat Beragama, FPUB）の会長でもある。また、知名度の高い文化人、知識人である。ムハイミンは、すべての人間は、どんな状態であれ平等であり、誰にも信心は確実にあり、それを否定することはできないという。したがって、ワリアが祈ることを禁止する権利は誰にもないと言った［PKBI Daerah Istimewa Yogyakarta 2014］。

当然、ウラマーたちの中には、ワリアの存在、そして、ワリアの寄宿塾の存在を認めないものも多い。しかし、2014 年段階では、ワリアの寄宿塾に通う信者たちに対して宗教講話と教育を行うために寄宿塾に通うイスラーム説教師も六名いる。さらに、2011 年からジュパラにあるナフダトゥール・ウラマー・イスラーム大学のイスラーム規範・法学部のチームがこの寄宿塾を訪問し始め、2014 年 3 月には、同学部と寄宿塾の間で合意文書が交わされた。その文書では、教育、研究、社会奉仕の三分野で協力を行うという規定があった［Fakultas Syari'ah dan Hukum Unisnu Jepara and Ponpes Waria Al-Fatah Yogyakarta 2013］。

ある読経会において、同大学を代表してヌル・ホリス・ハコラはワリアの存在を肯定している。彼によれば、ワリアのコミュニティは存在していて、彼らの信心を否定する理由は何もない。イスラームにおいてワリアはムコナス（mukhonas）と呼ばれており、遊び心でワリアになるもの以外に、神の意志によるもので、自分ではワリア以外になることができないものもいる。こうしたワリアがいるにもかかわらず、解釈の誤りにより、ワリアが宗教活動をする空間が狭められてしまっているのは問題だとした。さらに、一部の宗教グループが LGBT のグループに対して暴力を行使するケー

19）シンタとのインタビュー、2014 年 10 月 27 日。

スが増えていることも批判し、こうした暴力によってワリアたちが宗教への造詣を深める機会を妨げていることに批判的である［PKBI Daerah Istimewa Yogyakarta 2014］。

こうしたワリアについてのイスラーム解釈はメインストリームではなく、ワリアは病気であり、治療すべきだという見解も多い。例えば、先に挙げたウラマー評議会は、1997年にワリアについてのファトワを出しており、そこで、ワリアは女性のような振る舞いをする男性であり、イスラーム法で言うクンサ（khunsa）（両性具有者、或いは無性器者）ではない。したがって、厚生省と社会省は心理学者の助けを借りてワリアを普通の人（orang yang normal）にするよう指導すべきであり、内務省と関連部局はワリア組織を解散すべきだとの提案をしている［MUI 1997］。こうした意見があるなか、イスラーム指導者たちのなかにもワリアの存在を認めるものがいることはワリアにとって重要な意味を持つ。これまで以上に公共空間を生きやすくなるからである。こうした緩やかではあるが大きな社会変容のなかで、ワリアたちはフォーマルな政治にも参加し始めた。

民主化時代のワリアと政治

民主化とともに表現や思想の自由が拡大したことで、ワリアたちも組織的に権利要求をし始めた。1999年6月、スラバヤ市ワリア連合は、LGBTの権利要求をするインドネシア有数のNGOであるガヤ・ヌサンタラ、スラバヤにあるフランス文化会館（現、インドネシア・フランス会館）との共催でゲイ・プライドの祝典を実施した（http://gayanusantara.or.id/sejarah.html）。これはインドネシアで初めてのゲイ・プライドであり、ゲイ、レズビアン、ワリアたちが組織的に協力を強化しており、オープンに一緒に権利要求をし始めたことを示すものであった[20]。

スラバヤ市ワリア連合は政治にも関心を示した。民主化してから初めての1999年総選挙では、初代大統領スカルノの娘でスハルト体制に反対してきたメガワティを党首とする闘争民主党が第一党になった。従って、闘争民主党を支持する草の根の支持者たちはメガワティが大統領になることを望んでいた。しかし、イスラーム系政党やイスラーム社会組織のなかには、メガワティが女性であるという理由で彼女の大統領就任に反対する声が根強かった。イスラームの教えに従えば、国家元首に女性はなることができないというのが彼らの主張であった。こうしたメガワティ就任を阻止する試みに対して、スラバヤ市ワリア連合に結集した200人ほどのワリアたちは、1999年7月にメガワティを支持する血判状を自発的に作った。同連合の会長であるパンキー・クントゥットは、「この血判状を作ったのは、権力者たちに妨害され続けているメガワティを私たちが支援していることを示すためよ。警察が発砲してきても構わないわ」と述べた。パンキーによれば、ワリアたちがメガワティを支持する理由は、「私たちも女性と同じ感情を持っているから、女性が冷たくあしらわれることは嫌」だからである［*detik.com* 1999/7/2］。

メガワティへのスラバヤ市ワリア連合の支持は自発的なもので何らかの見返りを求めているわけではなかったにせよ、闘争民主党はスラバヤ市で第一党となり、メガワティが副大統領、そして大統領になっても、ワリアたちに目立った支援の手が差し伸べられることはなかったので、やはり失望はした。2004年の大統領直接選挙に際しては、スラバヤ市ワリア連合はメガワティを支持することはなかった。メガワティの選挙対策チームは、スラバヤに献身的メガワティ支持前線を作り、ハンセン病患者、道芸人、ワリアなどのマイノリティを取り込もうとしたものの、スラバヤ市ワリア連合はさして好意的反応をしなかった［*Media Indonesia* 2005/5/31］[21]。むしろ、同連合は、ド

20）1993年にジョグジャカルタでインドネシアで初めてのゲイとレズビアンの会議が開かれている［Offord 2011: 144］。
21）デデ・ウトモとのインタビュー、2014年10月25日。

ナーによるHIV/エイズ予防のための支援金を得て、ワリアたちへのHIV/エイズ予防教育などを実施しながら、組織の強化を図っていくことに力を注いだ。そして、インドネシアでも有数のワリア組織となった。

こうしたワリアの組織化とは別な形で、個人ベースで政界や法曹界を目指したワリアも出てきた。政界進出を試みた最初のワリアは、2006年にはワリア・コンテストで優勝したマランのメリリン・ソフヤンであろう[22)]。メリリンは国立マラン工科大学に入学してからしばらくした1995年、ワリアであることをカミングアウトして公然と化粧をするようになった。卒業後、サイフル・アンワル総合病院でHIV/エイズ患者のための介護支援員となり、また、マラン・ワリア連盟の会長にもなった。この連盟は、マラン地区では最も堅実なワリア組織であり、ドナーからHIV/エイズ予防プロジェクトを最初に獲得したワリア組織である。メリリンは、マラン・ワリア連盟の会長としての経験とドナー・プログラムを獲得・実施した経験で自信をつけ始め、ワリアとして政界進出を模索し始めた。2004年6月、メリリンはジャーナリストや友人たちの後押しを受けてマラン市長選に立候補することを決めた。当時の市長は市議会の投票で選ばれた。メリリンも市議会での支持はあったとしても僅かなことは分かっていた。メリリンが立候補で目指したのは、政界においてワリアには能力も勇気もあることを示すことであった。結局、選挙管理委員会で投票用紙を取るのが遅かったために立候補することができなかった。続いて、メリリンは同年、インドネシア正義統一党（Partai Keadilan dan Persatuan Indonesia, PKPI）からマラン市議会選に立候補した。メリリンが正義統一党を選んだのは、同党の使命や目標が彼女の希望に沿っているし、同党はワリアの要望を聞く用意があったからだという。結局、メリリンは市議会選に敗れた。ワリアが選挙で勝利することは容易ではないから当たり前といえばそうであるが、少なくともワリアに対する一般市民の認識を変えるための第一歩にはなった。

ジャカルタには法曹界、そして政界に進出を目論んだワリアがいる。それはパプアのメラウケ出身のユリアヌス・ラトゥブラウト、通称マミ・ユリである[23)]。マミ・ユリは、メラウケで高校卒業後、ジャカルタで大学に進学した。友人に誘われてラワン公園に行ってワリアたちに出会ったことが人生を変えた。ワリアとして化粧をして生きることを決め、ジャカルタで17年間、夜のたまり場で生きてきた。セックス・ワーカーをしていたがお客がつかず、途中からセックス・ワーカーのワリアたちのボディ・ガードになったという［*Tempo.co* 2013/11/23］。2005年には、マミ・ユリは全インドネシア・ワリア連絡協議会（FKWI）の会長となり、自分の美容室を事務所とした。連絡協議会の目的は、ワリアの生活を助け、ワリアの権利実現を求めて闘うことである。高齢を迎えたワリアたちの老人ホームも作った。マミ・ユリはワリアたちにとっての先駆者、見本になろうとした。そのため、2007年には人権委員会の委員候補に立候補したものの、国会の行う適性検査で不合格判断をくだされた。マミ・ユリは法学の知識の重要性に気づき、アト・タウリヤ・イスラーム大学の法学部に入学しようと努力を重ねた。

八回落ちた後、マミ・ユリは同学部に入学を認められ、女性の服を着て登校し始めたという。イスラーム大学で意図的に女性の服を着ることで、ワリアの存在を認めさせようという狙いがあった。入学当初は、大学生たちから笑いの種になったが、徐々に受け入れられていったという。そして、2010年には少数派の働く権利とジャカルタ州政府に関する卒業論文を書いて卒業した。この

22）メリリンについては、彼女の自伝［Merlyn 2005］や［*Merdeka.com* 2013/6/16］参照。

23）マミ・ユリについては、マミ・ユリとのインタビュー（2014年9月9日、2015年8月1日）に加え、7人のワリアとのインタビューをまとめた書籍［Hartoyo et al. 2014］参照。

法学の学士号を手にしたことから、マミ・ユリは再び人権委員会の委員に立候補をするが、やはり委員にはなれなかった。この二度の失敗を踏まえ、マミ・ユリは、ワリアのイメージ向上のために1人で道を切り開いていくのは難しいと考え、政治的ルートを利用することを考え始めた。ここから、ナショナル・レベルでのワリアの政治化の動きが始まる。

マスとしてのワリアの政治化の始まり

スラバヤ同様、ジャカルタにおいても、民主化後、ワリアの多くはどちらかと言えば闘争民主党を支持していた。闘争民主党がワリアたちに保健サービスを提供したり、メガワティの息子プラナンダ・プラボウォがミス・ワリア・コンテストやバレーボール大会を支援したりしてくれていたからである[24)]。しかし、支持は受動的であり、それほど目に見えるものではなかった。そうした流れに変化が起きたのが、2012年のジャカルタ州知事選であった。マミ・ユリと全インドネシア・ワリア連絡協議会のメンバーたちが州知事選について話し合いを行い、州知事候補になったジョコウィを明確に支持することに決めた。ジャカルタ州知事選の第二ラウンドでは、有権者登録をしたワリアが8000人おり、彼らは確実にジョコウィとアホックを支持すると、マミ・ユリは投票前にメディアに語っている［*Kompas.com* 2012/9/16］。

マミ・ユリたちが闘争民主党のジョコウィを支持することに決めたのは、彼が素朴な人柄であり、人々に近い候補だからである。マミ・ユリたちは、ジョコウィが州知事になることで変化が起きることを望んでいた。ワリアたちが差別されることがなくなり、他の国民と同じく、仕事を見つけることができて、保健サービスにも容易にアクセスできるようになることを望んでいた。州知事選第二ラウンドの四日前、カーニバルの格好をした10人のワリアとジョコウィとアホックのキャンペーンに利用されているチェックの服を着た30名ほどのワリアがホテル・インドネシア前の噴水前で選挙キャンペーンを行った［*Kompas.com* 2012/9/16］。第二ラウンドの投票当日には、マミ・ユリと7人のワリアたちがチェックの服を着て投票所でメガワティとジョコウィの投票を見守った［*Sindonews.com* 2012/9/20］。

ジョコウィがジャカルタ州知事に選ばれると、全インドネシア・ワリア連絡協議会のメンバーは、ワリアがその勝利に少しは貢献したという自負もあり、州知事庁舎を何度か訪れて、ワリアの活動支援のための申請書を提出した。彼らは、バンコクにあるニューハーフショーのようなエンターテイメントをジャカルタで行うことを望んでいた。州の公認でかつてのファンタスティック・ドールズのようなものができることを望んでいたともいえる[25)]。ジョコウィ自身はそうした提案を歓迎したものの、彼らと直接面談する機会もなく、2014年には大統領選に出馬することになった。

ジョコウィのためのワリアのボランティア運動の全国化

州知事の頃からワリアに理解を示していたジョコウィが大統領候補になったことで、マミ・ユリたちは積極的にジョコウィ大統領候補を支持するようになった。2014年1月12日、ジョコウィを支持するボランティア・グループのインドネシア市民組織・コミュニティ・ネットワーク全国事務局（、通称ジョコウィ全国事務局）がイニシアティブをとって実施した「ジョコ・ウィドドの2014年大統領立候補支持宣言」パレードには、320名ほどのワリアたちも参加した。このパレードはインドネシア銀行の前にある馬の彫像あたりからホテル・インドネシアの噴水前まで行われた。この

24）マミ・ユリとのインタビュー、2014年9月9日。
25）マミ・ユリとのインタビュー、2014年9月9日。

パレードでは、様々なアトラクションがあり、トランペットやタンバリン演奏もあれば、ポノロゴ地方の伝統芸能レオグも演じられた［*Kompas.com* 2014/1/12］。マミ・ユリたちがジョコウィを大統領候補として支持する理由は、彼らがジョコウィを州知事候補として支持した理由と同じである。ジョコウィは素朴であり、ワリアのような周辺化された人も含めて小さき民（wong cilik）を守ってくれるとマミ・ユリたちは考えたのである。パレード後、マミ・ユリは記者の質問にこう答えている。「私はたまたま会長です。だから、私は、インドネシアにいるすべてのワリアにジョコウィ支持のための同様な行動をとるように指示を飛ばす予定です［*Merdeka.com* 2014/1/13］。」マミ・ユリは全インドネシア・ワリア連絡協議会の会長だからこのような発言をしたのだが、彼女の影響力はジャカルタ、そして東部インドネシアの一部で強いものの、他の地域ではそれほどでもない。

実際、すべてのワリアがジョコウィを支持したわけではない。売春をしているワリアの用心棒役のチンピラに頼まれて対立候補のプラボウォを支持しているものもいた。また、一部のワリアは、ジョコウィはジャカルタ州知事の職務に専念してジャカルタの抱える様々な問題を解決することが先決だと訴えるデモを行った［*Kompas.com* 2014/4/6］。

ワリアの組織がそれほど発達しておらず、ワリアたち各自が独立して生計手段を探す傾向が強い地域ではワリアたちの権利意識、政治意識は高くない。それゆえ、そもそも投票しないことが多い。仮に投票するにせよ、候補者の思想やビジョンの内容を考えて支持するのではなく、外見から判断する傾向がある。2014 年の大統領選挙では、軟弱に見えるジョコウィよりも男性らしさを全面に打ち出したプラボウォを好む傾向も目立った。組織化の弱い例として、リアウ州を見てみよう。

地方分権化後、リアウ州は石油とパーム油の収入によりインドネシアで最も豊かな州の一つとなっている。州都ペカンバルは経済成長が著しく、インドネシア各地からの人の流入が激しく一種のフロンティア社会の様相を呈しており、社会の流動性が高い。それはワリアにも当てはまり、半数以上が新参者であり、組織化があまり進んでいない。1996 年の頃にはすでにゲイ・シアク（Gay Siak）というゲイやワリアを対象とする NGO があったが、内紛により活動停止に陥ってしまった。2007 年に同心傘連帯（Ikatan Payung Sehati, IPAS）とワリア・ゲイ（Waria Gay, Warga）という NGO が誕生し、主たる活動として HIV/ エイズ予防プログラムを実施しているが、それほど本格的に行われていない。しかも、新参者が多く、投票の最低条件であるペカンバルの住民登録証を持っていないことが多い。仮にペカンバルで住民登録証を作ろうとすれば、家族カードと前の居住地を管轄する村役場や町役場からのレターも必要となってくる。故郷から逃げてきたケースの多いワリアにとってこうした手続を進んで行う可能性は極めて低い。結果として、大統領選に無関心であるか、仮に興味があったとしても、外見で判断して、男らしさを全面に打ち出すプラボウォ支持になることが多かったという[26]。

こうしたフロンティア社会に生きるワリアたちと違い、組織化が進んでいるような都市部に住むワリアたちの多くはジョコウィを支持した。しかも、各地に存在しているワリア組織やコミュニティの間では、ワリア・コンテストなどの開催にも見られるようにネットワークができていたことから、ジョコウィ支持の声はこうしたネットワークを通じて広がっていった。マミや友人のワリアたちから、ジョコウィは多様性を尊重し、社会的弱者にも理解を示しており、そのことは彼がソロ市長、ジャカルタ州知事であったときのパフォーマンスが示しているということを聞かされていたからである。そして、ジョコウィが大統領になれば、ワリアたちにも支援の手が伸びると判断して、ジョコウィを支持するボランティア、レラワンになっていった。2012 年のジャカルタ州知事

26）ヨギ（同心傘連帯会長）（2015 年 3 月 12 日）、バージン（ワリア・ゲイ会長）（2015 年 3 月 13 日）とのインタビュー。

選でも、2014年の大統領選でも、政党を信頼せず、既存の寡頭制的な政治状況に不満を抱いた有権者たちが政治的見返りを求めずにジョコウィを支持する現象が起きた。そして、そうした支持者がレラワンと呼ばれたのだが、ワリアの場合、レラワンになることで社会的、政治的認知を獲得し、更に、ジョコウィ勝利の暁には政治的見返りの獲得も狙っていた点が大きな特徴である。

スラバヤ市では、インドネシアでも歴史のあるスラバヤ市ワリア連盟は組織としてジョコウィを支持しなかったが、そのメンバーの多くはジョコウィを支持した。彼らは、他のLGBT運動やジョコウィ支持のボランティア・グループに合流した。スラバヤにあるジョコウィ全国事務局支部は、6つのコミュニティの支持獲得に真剣に取り込んでおり、ワリアたちをその内の一つとしていた。精神革命のためのスラバヤ女性統一連帯という女性のボランティア組織が2014年6月25日に誕生して、ジョコウィとユスフ・カラを正副大統領候補として支持する宣言をした。その場には、先駆的なゲイのNGOであるガヤ・ヌサンタラや他のLGBT組織やメンバーも出席してジョコウィ支持を表明した。当然、ワリアたちもその中にはいた［DPD PDI Perjuangan 2014a; 2014b］。

バンカ・ビリトゥン島嶼部州の州都パンカルピナン市では、ワリアたちがWR・バベルというボランティア組織を作ってジョコウィを支持した。このWR・バベルを率いるベティはパンカルピナン市HIV/エイズ対策事務所で働いている。ワリアゆえに、夜の街で働いてHIV/エイズ罹患率が高い売春婦たちにアクセスすることができることから、パンカルピナン市が雇用しているのである。ベティの場合、家族の影響もあり、スハルト体制の頃から闘争民主党の前身である民主党を支持しており、17歳の頃に同党員になっていた。スハルト体制崩壊後もメガワティ率いる闘争民主党を支持し続け、小学校卒業という学歴ながら、パンパルピナン市にある郡レベルの党支部の執行部入りしていた。それゆえ、同党からジョコウィが大統領候補として出馬することが分かり次第、即座に支持したのである。そして、市内のワリアたち30人をジョコウィ支持のボランティアとしてリクルートすることに成功した。横断幕を持って練り歩いたり、ビラを配ったりなどして、深夜まで選挙キャンペーンをし続けた[27]。

こうしたワリアのジョコウィへの支持はインドネシアの諸都市に広がっていった。バンカ・ビリトゥン島嶼部州では、パンカルピナン市だけでなく、隣島のビリトゥン島の都市タンジュンパンダンでもベティの後押しもあり、ワリアたちはジョコウィを支持した。南スマトラ州のパレンバン市でもワリアたちのジョコウィ支持キャンペーンが行われた。ジョグジャカルタでは、ワリア組織の老舗であるジョグジャカルタ・ワリア連帯は総選挙の時にはどの政党を支持するのかについて方向性は示さなかった。しかし、大統領選挙の時には、同連帯の会長であり、ワリア向けのイスラーム寄宿塾を持つシンタがジョグジャカルタのワリア・ボランティアのコーディネーターとなり、連帯のワリアたちはジョコウィ＝ユスフ・カラを支持した。シンタによれば、ワリアたちはライバル候補であるプラボウォを恐れていたという。イスラーム急進派グループがプラボウォを支持していたため、彼が大統領になればワリアたちが迫害される可能性があったからである。ジョグジャカルタ・ワリア連帯のメンバー228人のうち住民登録証を持っていたのは60人だけであるが、シンタによれば、皆、ジョコウィ＝カラに投票したのだという[28]。

ジャカルタのワリアたち

こうしたワリアたちのジョコウィ支持キャンペーンのなかでも、首都ジャカルタでのマミ・ユリ

27）ベティー（WR・バベル会長）とのインタビュー、2014年9月2日。
28）シンタとのインタビュー、2014年10月27日。

率いるワリアたちの動きが最も目立った。実質的に目立つキャンペーンをしていた上に、首都ゆえにメディアが積極的に取り上げたからである。2014 年 1 月の時点でジョコウィを大統領にすることを求める宣言のパレードに参加していたことは先述した。それだけではなくて、4 月 6 日が投票日であった総選挙のキャンペーンでは、ワリアたちに理解を示しているとマミ・ユリたちが判断した闘争民主党からのジャカルタ州議会議員候補 3 名（インドラワティ・デウィ、パンダポタン・シナガ、セレイダ・タンブナン）を支持した[29]。

大統領選のキャンペーンが始まると、全インドネシア・ワリア連絡協議会は「紅白旗の人々ボランティア」（Relawan Rakyat Merah Putih）というジョコウィ＝ユスフ・カラを支持するボランティア・グループに参加することを決めた。このボランティア組織のトップは、闘争民主党の選挙対策本部役員のシハル・シトルスである。アブラヤシ農園で大成功した父親を持つシトルスは、カトリックのバタック人であり、インドネシアではマイノリティに当たる。イギリスで最も LGBT に寛容な都市の一つと言われるマンチェスターで博士後期課程を過ごしていることから、LGBT を含めたマイノリティの政治には理解があったと思われる。そのため、このボランティア組織は、全 33 州の町・村レベルにまでボランティアの受け皿を作ることに加え、周辺化されているコミュニティを結集して協働関係をつくり上げることを大統領選での目的として掲げた。そして、同組織の活動報告書によれば、非常に多様な 70 のコミュニティが同組織の傘下に入ってジョコウィ＝ユスフ・カラを支持したという。具体的なコミュニティとして、ワリアのコミュニティに加え、小人症コミュニティ、盲目アーティスト・コミュニティ、アル島慣習共同体、伝統信仰信者コミュニティ、シーア派コミュニティ、神秘主義ナクサバンディア・コミュニティ、西ジャワ・インドネシア・イスラーム国家樹立運動、勤労青年団（Ikatan Pemuda Karya, IPK）などがあげられている[30]。

このボランティア組織が実際、どこまで多様な人々をジョコウィ支持に動員できたのかは曖昧なところも多い。例えば、活動報告書では、このボランティア組織がネットワークを作った 70 余りのコミュニティのメンバーを合わせると 2500 万人に達すると書かれているが、これは誇張にすぎる［Rakyat Merah Putih 2014］。北スマトラ州をベースとして活動する勤労青年団は、全国展開するパンチャシラ青年団と並ぶ暴力集団であり、マージナルなコミュニティとは言いがたいし、それ以外のコミュニティについてもどこまで具体的なコミュニティなのかはっきりしないものもある。ただし、ワリア・コミュニティについていえば、マミ・ユリを通じてジョコウィを支持する基盤の拡大が顕著であった。

2014 年 6 月 21 日、「紅白旗の人々ボランティア」のジャカルタ本部にて、マミ・ユリたちはジョコウィ支持宣言を行った。マミ・ユリたちは、少なくとも、マミ・ユリ率いるワリア組織が比較的強い影響力を持つジャカルタ、マカッサル、マラン、パレンバンにて、ワリアは 10 人、最低でも 3 人の有権者を説得してジョコウィ支持にすることを約束した。その見返りにワリアたちは、シトルスを通じて、ジョコウィの当選後にはワリアたちの人権擁護も含めた人権保護法の制定、そしてワリアたちが貧困と差別から脱却できる対策を講じてもらうことを臨んだ[31]。

このボランティア組織への合流後、マミ・ユリたちは各地のワリアたちに連絡してジョコウィへの支持を呼びかけた。そうした呼びかけもあり、先に上げたように各地でワリアたちがジョコウィを支持する声を上げた。ただ、都会に逃れてきたワリアたちの場合、住民登録証がないものが

29）マミ・ユリとのインタビュー、2014 年 9 月 9 日。
30）シハル・シトルスとのインタビュー、2015 年 11 月 3 日、11 月 5 日。
31）マミ・ユリとのインタビュー、2014 年 9 月 9 日、2015 年 11 月 5 日。

多く、また、そもそも投票することなど思いもよらないものも多い。総選挙管理委員会としては、マージナルな国民が選挙権を行使することは歓迎すべきことであり、ワリアにも選挙権の行使を望んでいた。従って、例えば、ペカンバルでは地方選挙管理委員会がワリア組織ワルガのトップをリクルートして他のワリアに投票するよう呼びかけるよう試みてもいる[32]。「紅白旗の人々ボランティア」の報告書では、700万人のワリアがジョコウィを支持していると書かれているが、実態とはかけ離れていることは間違いない。実際の数は定かではないとはいえ、今回の大統領選挙におけるワリアたちの全国的政治化は画期的であった。

ジャカルタに限らず、主要な都市にみるワリアたちはボランティアとして自らの意志で立ち上がり、選挙キャンペーンに参加した。とはいえ、たまり場に集うワリアたちはマミの指揮のもとで動員されることが多いことから、非民主的に動員された面が強いことは否めない。選挙キャンペーンで重要なのは数であるから、住民登録票がなくてそもそも投票できないワリアもマミの要請でキャンペーンに参加させることで頭数を増やしていった。逆説的であるが、マミの絶対的で（上意下達的な）意思決定に基づく非民主的な運営方法だからこそ、民主的な選挙で存在感を示すことができた。他のLGBTのコミュニティ、例えばゲイたちもジョコウィを支持したが、集団化して支持するというより、個人ベースでフェイスブックなどのサイバースペースで積極的に発信する傾向が目立ったのとはかなり違う。それは先述したようにワリアとしてのアイデンティティーを隠蔽して日常生活を送ることがそれほど容易ではないため、ワリアらしさをオープンに示すことへのためらいが少ない。それゆえ、LGBTのなかでもワリアたちがジョコウィの選挙キャンペーンの地上戦で主役となったのである。

おわりに――ジョコウィの勝利とワリアたちの更なる政治

選挙キャンペーン終盤にはジョコウィへのネガティブ・キャンペーンもあり、ライバルのプラボウォが勝利する可能性が出てきた。しかし、さまざまなボランティア・グループが選挙キャンペーンの最終段階のときにジャカルタで大規模コンサートを行ってジョコウィ人気を盛り返すことに成功したこともあり、ジョコウィ＝ユスフ・カラは比較的僅差で勝利をおさめることに成功した。このジョコウィ勝利を受けてマミ・ユリは行動に出た。ジョコウィとユスフ・カラがユドヨノ政権からの政権移行を円滑に進めるために設けた政権移行準備棟（Rumah Transisi）を設置してから1.5ヶ月が経った9月18日、マミ・ユリら十数人のワリアが同棟を訪れた。マミ・ユリは記者に次のように語っている。「私たちは（ジョコウィを――筆者注）支持をしてきたし、コミットメントを示してきました。今日、私たちは全インドネシアのワリア・コミュニティを代表して、私たちの要望を伝えるために政権移行準備棟にやって来ました」。マミ・ユリたちはジョコウィ新政権に対して大きな期待を抱いており、マージナルなグループとしてワリアたちを差別しないよう求めた。更には、ワリアたちがキャンペーンに参加してジョコウィの勝利に貢献したという自負から、ワリアを含めたマージナルな人々の意見を汲んでくれる1人の人物を大臣候補として挙げる予定であった。結局、事前に許可をもらっていなかったことから、彼らはジョコウィに会えず帰っていった［Tribunnews.com 2014/9/18; Bisnis.com 2014/9/19］。

10月20日には、マミ・ユリ他50名のワリアたちがホテル・インドネシアの噴水前で他のボランティアたちとともに、就任式のために宮殿へと向かうジョコウィを見送った［*Tempo.co* 2014/10/20］。ジョグジャカルタではジョグジャカルタ・ワリア連盟のメンバーたちはジョコウィ就任を祝うパ

32）バージン（ワリア・ゲイ会長）とのインタビュー、2015年3月13日。

レードに参加した［*Kompas.com* 2014/10/20］。そして、2015 年 5 月 16 日、約 8000 人のボランティアたちがインドネシア各地から集って開催された大型野外パーティーにおいては、ボランティア・グループの代表たちがジョコウィに話す機会が与えられた。マミ・ユリはワリアを代表してジョコウィに話し、ジョコウィ政権下でワリアやその他のマージナルなグループが差別と恥辱から解放されることを望むと伝えた［Suara Pembaruan 2015/5/17］。おそらく、大統領がワリアの代表と比較的公的な場で会ったのはインドネシアでも初めてのことであったと思われる。ただ、大統領に会っただけのことであり、一見すると非常に些細なことかもしれない。しかし、以前はそれさえ難しかったのがマージナルなワリアたちであった。この小さいが重要なワリアのナショナルなレベルの政治化の一歩は、ジョコウィ政権下のインドネシアの民主主義が多様性を尊重することを象徴する出来事であり、ワリアたちも含めた LGBT にとって大きな転換点と言える。

参照文献

＜新聞、オンライン・ジャーナル＞

Bisnis.com

2014/9/19 “Tak Mau Ketinggalan, Para Waria Sodorkan Permintaan ke Jokowi, Apa Saja?”

detik.com

1999/7/2 “Ada Waria Dukung Mega.”

Jakarta Globe (thejakartaglobe.beritasatu.com)

2014/5/15 “My Experience Working with Jakarta’s Transgender Community.”

Kompas.com

2012/9/16 “Komunitas Waria Dukung Jokowi-Basuki.”

2014/1/12 “Ratusan Waria Pawai Dukung Jokowi Jadi Presiden.”

2014/4/6 “Puluhan Waria Demo, Minta Jokowi Tetapi Jadi Gubernur DKI.”

2014/10/20 “Pawai di HI, Waria Minta Jokowi Hapus Diskriminasi.”

Media Indonesia

2005/5/31 “Waria Surabaya Ikuti Sosialisasi Pilkada.”

Merdeka.com

2013/6/16 “Tanpa Lelah, Merlyin Berjuang demi Waria.”

2014/1/13 3 “Pengorbanan Para Waria untuk Pencapresan Jokowi.”

Sindonews.com

2012/9/20 “Megawati&Jokowi Dikawal Mami Yuli.”

Suara Pembaruan (sp.beritasatu.com)

2015/5/17 “Mami Yuli: Terima Kasih Jokowi, Terima Kasih Pak Sihar.”

Tempo.co

2013/11/23 “Mami Yulie, Sinar Lilin bagi Kaum Waria.”

2013/11/24 “Pesantren Waria Yogyakarta Satu-satunya di Dunia.”

2013/11/26 “Mister Bambang Alias Miss Mirna.”

2014/10/20 “Ini Harapan Kaum Waria pada Presiden Jokowi.”

Tribunnews.com

2014/9/18 “Datangi Rumah Transisi, Komunitas Waria Setor Satu Orang Calon Menteri ke Jokowi.”

＜雑誌、著書＞

伊藤眞 2000「チャラバイ、ビッス、ベンチョン――南スラウェシにおけるトランスジェンダー」『人文学報』（東京都立大学人文学部）309, pp. 82–109.

――― 2003「女のこころをもつ＜かれら＞――インドネシアのチャラバイ」松方万亀雄（編著）『くらしの文化人類学 4　性の文脈』雄山閣, pp. 226–249.

岡本正明 2015「第 6 章　ユドヨノ政権の 10 年間――政治的安定・停滞と市民社会の胎動」、川村晃一（編著）『新興民主主義大国インドネシア――ユドヨノ政権の 10 年とジョコウィ政権の誕生』ジェトロ・アジア経済研究所, pp. 159–184.

川村晃一・見市建 2015「第 3 章　大統領選挙――庶民派対エリートの大激戦」、川村晃一（編著）『新興民主主義大国インドネシア――ユドヨノ政権の 10 年とジョコウィ政権の誕生』ジェトロ・アジア経済研究所, pp. 73–94.

小林寧子 2008『インドネシア――展開するイスラーム』（南山大学学術叢書）名古屋大学出版会.

本名純 2015「第 4 章　ジョコ・ウィドド政権の誕生――選挙政治と権力再編」川村晃一（編著）『新興民主主義大国インドネシア――ユドヨノ政権の 10 年とジョコウィ政権の誕生』ジェトロ・アジア経済研究所, pp. 95–125, 159–184.

Abeyasekere, Susan. 1987. *Jakarta: A History*. Oxford: Oxford University Press.

Ahmad Suaedy. 2014. “The Role of Volunteers and Political Participation in the 2012 Jakarta Gubernatorial Election,” *Journal of Current Southeast Asian Affairs* 33(1), pp. 111–138.

Boelstroff, Tom. 2007. *A Coincidence of Desires: Anthropology, Queer Studies, Indonesia*. Durham: Duke University Press.

Dede Oetomo. 2001. *Memberi Suara pada Yang Bisu*. Yogyakarta: Galang Press.

Dorce Gamalama and FX Rudy Gunawan. 2005. *Aku Perempuan: Jalan Berliku Seorang Dorce Gamalama*. Jakarta: GagasMedia.

DPD PDI Perjuangan. 2014a. “Seknas Fokus Garap Komunitas Binaan,” <http://pdiperjuangan-jatim.com/seknas-fokus-garap-komunitas-binaan/>

———. 2014b. “Aliansi Perempuan untuk Revolusi Mental Dukung Jokowi-JK,” <http://pdiperjuangan-jatim.com/aliansi-perempuan- untuk-revolusi-mental-dukung-jokowi-jk/>

Fakultas Syari’ah dan Hukum Unisnu Jepara and Ponpes Waria Al-Fatah Yogyakarta 2013. *Nota Kesepahaman Fakultas Syari’ah dan Hukum Unisnu Jepara and Ponpes Waria Al-Fatah Yogyakarta*.

Hartoyo, Titiana Adinda, Prodita Sabarini, Tanti Noor Said and Gusti Bayu. 2014. *Sesuai Kata Hati: Kisah Perjuangan 7 Waria*. Jakarta: Rehal Pustaka.

Inside Indonesia. 1994. “We Have Been Treated like Animals,” *Inside Indonesia* 41. p. 4.

Isye Soentoro. 1996. *Anak Kehidupan*. Jakarta: Cipta Cinta.

Julia Suryakusuma. 2011. *State Ibuisme*. Jakarta: Komunitas Bambu.

Kemala Atmojo. 1986. *Kami Bukan Lelaki: Sebuah Sketsa Kehidupan Kaum Waria*. Jakarta: Pustaka Utama Grafiti.

Koeswinarno. 2004. *Hidup sebagai Waria*. Yogyakarta: PT. LKiS Pelangi Aksara.

Kortschak. 2007. “Defining Waria,” *Inside Indonesia* 90.

Kristin Samah and Fransisca Ria Susanti. 2014. *Berpolitik tanpa Partai: Fenomena Relawan dalam Pilpres*. Jakarta: PT. Gramedia Pustaka Utama.

Majelis Ulama Indonesia (MUI). 1997. *Kedudukan Waria*. Jakarta: MUI.

Marjaana Jauhola. 2012. "'Natural' Sex Difference? Negotiating the Meanings of Sex, Gender and Kodrat through Gender Equality Discourse in Aceh, Indonesia," *Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific* 30. <http://intersections.anu.edu.au/issue30/jauhola.htm>

Merlyn Sopjan. 2005. *Jangan Lihat Kelaminku*. Yogjakarta: Galang Press.

Offord, Baden. 2011. "Singapore, Malaysia and Indonesia: Arrested Development!," in David Paternotte, Carol Johnsor, Manon Tremblay (eds.), *The Lesbian and Gay Movement and the State: Comparative Insights into a Transformed Relationship*. Farnham: Ashgate, pp.136–152.

PKBI Daerah Istimewa Yogyakarta. 2014. "Religiusitas Tak Mengenal Batas." <http://pkbi-diy.info/?p=3739>

Rakyat Merah Putih. 2014. *Laporan Kegiatan Pemenangan Jokowi-JK Pilpres 2014*.

Tim Jaringan Pemantauan HAM LGBTI Indonesia. 2013. *Laporan Situasi HAM LGBTI Di Indonesia Tahun 2012: Pengabaian Hak Asasi Berbasis Orientasi Seksual dan Identitas Gender: Kami Tidak Diam Forum LGBTIQ Indonesia*. Surabaya: Forum LGBTIQ Indonesia and GaYa Nusantara.